

保険診療で受けられる

腰椎椎間板ヘルニアの 新しい治療法

～切らずに治す腰椎椎間板ヘルニア治療～

「大きな手術はこわい」
「レーザー治療が気になる
でも、治療費が心配…」



保険診療で受けられる
新しい低侵襲治療があります



この治療は、腰椎椎間板ヘルニアに対する
経皮的髄核摘出術の新しい手法です。
ヘルニアの状態により適応とならない場合
もあります。詳しくは医師にご相談下さい。

腰椎椎間板ヘルニア

脊椎は椎骨と呼ばれる骨が連結したものです。
椎骨と椎骨の間には椎間板があり、その中心は
髄核と呼ばれるゼリー状の組織で、その周辺を
線維の層（線維輪）を取り囲んでいます。
この線維輪や髄核が後方に突出して神経を圧迫
するのが椎間板ヘルニアです。

腰椎椎間板ヘルニアでは、腰痛や片足の痛み、
坐骨神経痛、ひどい場合には排尿障害や下肢の
脱力感などの症状が出る場合があります。

椎間板ヘルニアの手術治療

安静やコルセット装着、薬物療法などの保存
療法で症状が改善しない場合は、手術の適応と
なります。

手術では、突出している椎間板を摘出して神経
の圧迫を取り除きます。この場合、背中 of 皮膚
を切開して行う方法が、最も一般的で治療成績
が良いとされています。

治療の特徴

この治療は、皮膚を切開せずに行う経皮的髄核摘出術と呼ばれる手術法の一つです。
直径 1.5mm という細い針を背中から刺入して髄核の一部を摘出します。従来の方法より
も傷が小さく侵襲がさらに少ないことが特徴です。

この治療により、約 60% の患者さんで腰痛の改善が、約 70% の患者さんで下肢の
痛みやしびれの改善が報告されています。

※この治療は椎間板の一部を摘出することで、突出した椎間板をもとの状態に戻そうと
するものです。通常の手術治療に比べて症状の改善までに時間を要する場合があります。

治療のながれ

- MRI や CT などの画像診断によって椎間板ヘルニアの状態や位置を確認し
この治療の適応があるかどうか判断します。
- 治療に差し支えるような合併症の有無や全身状態を調べます。
- 麻酔は局所麻酔で行いますが、場合により全身麻酔で行うこともあります。
- 治療はエックス線透視下で行います。
- 手術時間はおよそ 30 分から 1 時間程度です。
- 術後は 1 時間程度のベッド上安静の後、短時間の歩行が可能になります。

退院後の生活

退院の時期は患者さんの状態によって異なりますが、一般的には 1 泊から数日の入院となります。

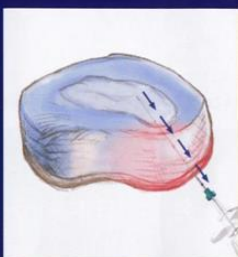
術後 1 週間程度はなるべく安静に努め、30 分以上持続しての立位や座位は避けた方が良いでしょう。

- 入浴：術後からシャワー浴が可能です。浴槽への入浴は術後 4 日目で降より可能となります。
- 仕事：術後 1 週間は、重いものを持ちたり、長時間の就労は避けましょう。詳しくは主治医にご相談下さい。
- スポーツ：軽い運動であれば術後 1 ～ 2 週間で可能となります。詳しくは主治医にご相談下さい。

手術の方法：背中から直径 1.5mm の針を直接椎間板に刺入して髄核の一部を摘出し、椎間板の容量を小さくすることで神経の圧迫を取り除きます。



エックス線で確認
しながら神経を避
けて椎間板に針を
刺入します。



針先から椎間板の
内容物をからめ取
り椎間板自体を小
さくします。



神経の圧迫が取り
除かれ痛みが改善
します。